

さいたま市障害者社会参加推進センターだより



# ぷらネット

第20号

平成二十二年度さいたま市社会参加推進センター事業  
**知るじつと寄り添いじつとから始めよう**

講演と講座で学ぶ

## 「認知症って……何？」

NPO法人さいたま市障害難病団体協議会



分かりやすい劇「認知症を知ろう」劇団にしく

「認知症」とは、「日常生活から分かる認知症」など、知りた  
いことをいっぱい抱  
えて講座1「認知症  
を知ろう」を劇形式  
で「劇団にしく」の  
みなさんに演じてい  
ただきました。接し  
方によって認知症の  
高齢者や家族の生活  
がどう変わっていく  
かが分かり、正しい  
知識を学びました。  
また、埼玉精神経  
センターの丸木雄一  
先生のお話からは、  
治療を続けること  
によって改善される  
し、接し方によって



認知症サポーター養成講座 河野寛子講師

もよい方向に変化することを教  
えていただきました。

### 「参加者の感想」

- 認知症をただただ怖いと思っ  
ていたけど、薬もある病気と  
知ってほっとした
  - 認知症にならないための予防  
法を詳しく知りたい
  - 誰にも関係する問題としてよ  
かった
- 認知症を多角的に取り上げた  
点が、共感を呼んだのだと思  
います。

この度の「東日本大震災」により被災されたみなさまに心からお見舞いを申しあげます

## 編集委員座談会

## 個性あふれる今年の事業

障害を知ってほしい

理解してほしい……

## アトムさんに魅せられて

司会 私が素晴らしいと思ったのは聴覚障害のアトムワールドですね。

障害ってどうやってもマイナスのイメージがあるでしょう。でも、アトムさんの生き方は障害を武器にしているのね。

お母さんのことは触れてなかったけど、お父さんも兄弟も聴覚に障害があるって。その中で、ご自分の生き方を探りながら生きていたんでしょう。

ろう学校にも行ってるんだけど、その中でいたずらはするわ、やんちゃはするわ、一通り年相応のやりたいことはやってきている。

会員さんの中にもがんばってるなあと思う方がいいいるけど、そのはねのけ方がすごい。そういうエネルギーが爆発するような演技でしたね。

A アトムさんはそれを手話でするんですか。見ている人も、手話が分からないとだめなんですか。

司会 いいえ、手話を音読する人がいるんですよ。健聴者に伝える人ね。

私は一番前に座っていたんですけど、後ろの方には聴覚障害の人がいっぱいいたのね。その人たちがワハハと笑うと、一拍遅れで私たちが笑うんですよ。いつもとは逆ですね。

A アトムさんて、有名な人なんですか。

B 本名ですか、アトムって。

司会 今年の社会参加推進センター事業も会員のみなさんの努力で無事終わりました。

今日は、ぷらネットの編集委員の方々にお出でいただいて、一つ一つの事業について感想や忌憚のないご意見を伺いたいと思います。

みなさん、どのくらい参加しましたか、一番印象に残っているのはどの事業でしたか。

A 私はそんなに熱心に参加してないから、比較はできませんね。

司会 そうですか。でも強いて言ったら？

A 私のところが一番良かった。(笑)



砂田アトムさん

1977年愛媛県松山市生まれろう学校小学部時代から父の影響を受け、演劇に興味を持ち日本ろう者劇団などで全国各地の舞台に立つ。NHKテレビ「みんなの手話」等活動を拡げている。



社会的入院の解消のために熱く語る田尾先生

## 社会的入院 解消に向けて 精神障害者 当事者会ウイーズ

司会 砂田さんというのとは本名ですが、アトムというのは芸名だそうです。講演をしたり、DVDを出したりしているようですよ。

## ストミーの進化

司会 オストミーもほぼ毎年参加していますが、誰でも、どの障害でもなる可能性はあるんですけど、人生の途中で突然その

障害になって、それでも働かなきゃならないとなったら、それを助ける器具があったり、仲間がいたりということがどれだけ大切か、そういうことを感じますね。

生活訓練について書く前に今

回の東日本大震災で被災された方、又関係者の皆様方に心よりお見舞い申し上げます。

さて、去る二月十一日障害者交流センターにて退院促進をテーマに田尾有樹子先生と単立ち会のメンバーの方々、そして、さいたま市で実際に退院支援員をなさっている河野さんを講師に講習会が催されました。

精神疾患の分野で治療の必要がないのに社会に受皿がない等の理由で入院させられる所謂「社会的入院」の問題は最近よく取りざたされています。

この問題は日本特有の問題であり、精神福祉の先進国などでは病床数削減や国家レベルでの

取り組みがされているようです。

私が思うには「社会的入院」を解消する為には地域に精神障害者が安心して暮らせる場が必要であると思います。

最後に今回の学習会には当事者のみならず、支援者、家族、行政、そしてこれらを担う若い世代がたくさん集まってくれました。

ありがとうございます。

稲葉 晃



講演の前に医療機器関係の方がたくさん並んで説明がありました

オストミーの場合、一見普通だから誰も助けてくれないでしょうし、でも、困っている人はいるんですよ。

パウチと言われている袋が、年々改善されていくんです。使いやすいものにね。

健全な人は誰も知らないけど、参加しているとよかったな

あつて思いますよ。

**B** あの方たちって、ガードが固いですね。

**司会** そうですね。一見して分からないから、敢えて言わないし、知られたくないっていう気持ちはあるでしょうね。

**B** Mさんが一人で頑張ってるように見えましたが。

**司会** でも、みんなで声をあげなければ、トイレの設置や改善なんて進まないでしょう。

**B** この事業に関わって毎年研修会やっているから、知られてきたんじゃないでしょうか。

### 途切れない支援を

**司会** 育成会の事業では、知的障害で行動力のある、割と障害の軽い人が、犯罪を犯すことがあります、その対応について考えなければいけないことを取り上げました。

知的障害の人は高圧的な対応をされると逆らえなくなつて、

## 「遺言を考える」

### 身体障害者福祉協会

毎年、家族教室開催事業を受託していますが、私たちの会員は平均年齢が六十代後半なので遺言についてはどうか、と役員会での話になりました。

財産がないので関係ないとの声も上がりましたが、遺産でもめている人が結構多い、とマスコミで話題になっていきますし、障害の子供を残していく親などは関心が深いのではないかと

やってないことをやりましたと言ってしまうこともよくあるんですね。

尋問も可視化されていないから、脅されたかどうかも分からないし、冤罪かどうかも分からないうちに不当な扱いを受けて認めてしまうこともあるようです。

話で一致しました。

埼玉弁護士会で推薦してくださった「高齢者・障がい者権利擁護委員会副委員長」藤原剛先生にお願いしました。優しい先生です。

遺言には「普通方式（自筆遺言）」「公正証書遺言」「秘密証書遺言」などがあります。

（レジュメが30部あります、必要な方は障害者協議会事務局に申し出てください）

これまで「知って得する福祉のサービス」「成年後見制度」「遺言の考え方」と進めてきたので、今回は新聞にもよくとりあげら

古くはレッサーパンダ事件と

言うのがありましたね。あの事件を遡って追及して行くと、養護学校を卒業した後、家庭の事情もあつたようですが支援の手が途切れてしまつて社会に放り出されたようになってしまつた。誰もケアする人がいない中で、事件をおこしてしまつたん



高齢者が多い会場でしたが、みんな真剣

れている「葬式の問題」にしよつと、役員会で決まりました。（終つひに葬式！ の声あり）

田口秀之助

です。

社会に対する啓蒙も無い中で犯罪がおこると、だから障害者は怖いという誤った考えをほびこらせてしまつた。

そうではなくて、支える組織があればこういうことはおこらないのではないかとこの考え方にシフトして行かないとね。



家族の危機を救うために必要なものは…

## それでも入所施設 は必要なのか 障害者(児)の生活と権利 を守るさいたま市民の会

障害者家族の生き方パートⅡ  
家族の危機それでも入所施設は  
必要なのか、「大阪の地域拠  
点づくり運動に学ぶ」をテーマ  
に障害者児を守る全大阪連絡協  
議会代表幹事の中内福成氏にお  
話しをしていただきました。

大阪、堺市で取り組まれた、知的障害者の生活実態調査の結果から「暮らしの場に何が必要か」「必要な時に必要な支援を」と考えたとき、入所施設は重要な選択肢であることが明らかになりました。それは、グループホーム、ケアホームを含め地域で暮らす障害者の生活支援を担う、二十四時間年中無休の拠点施設であることが重要です。その拠点施設では、シヨートステイやヘルパー派遣を行うほか、ホームで働く職員、世話人の養成、研修も行うことが大切であり、これを実現させるには、地域で施設の枠を超えた連携、共同の取り組みが重要であり、そのことが行政や地域を変える力になることです。ご自身が知的障害者の親であることを含め、ご家庭でのことを交えながら分かりやすい話をしていただき、参加された皆さんから大変好評をいただきました。渡辺 浩二



やさしい語りくちで話す大石弁護士さん

B うちの息子の場合、コンビニなんかに行ってきれいな人を見るとニヤニヤしちゃうように。ある時交番に突き出されちゃって、電話があつて迎えに行きましたけど。でも職場で似たようなことがあつたけど、そこではいけないと言つて、ちゃんと話してくれるから、職場ではそういう行動は無くなりましたね。悪いことは悪いと回りの人も

言わなきゃいけないですね。

### 障害別対応を忘れないで

司会 視覚障害の事業の時、事務局に手伝いに来てほしいと要請があつたんです。どの会も、特に問題がない場合その会だけで運営しているから、何をするのかつて聞いてくださいます。いきました。

そうしたら、写真を取ってくださいと言われました。ああ、そうなんだって思いましたよ。私たちって、いつも思うんだけど、そういうことつい忘れて、自分の物差しで計算してしまうんですね。

C 私たちも写真撮るなんてこと、忘れちゃうんですよ。そうそう、今度の震災で、最初のころ官房長官がテレビに出てましたけど、手話がなかったんですってね。息子が、お母さんやっとな手話が付いたよって教えてくれたんですよ。

司会 民放の方が手話付きになつたのは早かつたような気がしますね。

C それまで、聴覚障害の人はどうしていたんでしょう。

司会 中央の障害者団体が、災害が起こったらずに手話を付けてくれて申し入れをしたよ

うですよ。

C 私はMさん(さいたま市聴覚障害者協会事務局長)なんか、怒ってるんじゃないかと思っていました。(笑)

司会 だから私たちがお手伝いして成立した(通称)ノーマライゼーション条例が必要なんで

すね。障害のない人は気がつかないですよ。

障害のある人が安全に暮らしていくためにも、あの条例は必要なんだと思います。

みなさん、ありがとうございます。

# 手話を学ぶ機会をもっとふやしたい

## 難聴者中途失聴者協会

一、今回の手話教室において、

金澤講師から、手話には、

一つ一つ語源があり、且つ

多様な手話表現方法がある

ことを学びました。

難聴者・中途失聴者にとり、

コミュニケーションを図る

手段として、手話の大切さ、

奥深さを再認識させられました。

二、受講者の多くは、中途失聴

者と思われませんが、初めて

手話を学ぼうと志す人、家

族に聴覚障害をもつ健聴者

の参加も見られ、参加者全

員が手話を習得しようとする

意気込みを強く感じました。

又、特に初心者に対する

スタッフの親身の対応に

も心をうたれました。

三、中途失聴者にとり、日常生

活に不可欠な手話を学ぶ機会

会は以外に少なく、もっと

その機会があっても良いの

ではないでしょうか。

当手話教室は、その不足を補

うことの出来る数少ない場です。

今回のフォローアップの意味でも、年二回程度の実施を期待しています。

最後に講師・アシスタント・要約筆記者・応援スタッフ・事務局の皆様の熱いご支援有難うございました。

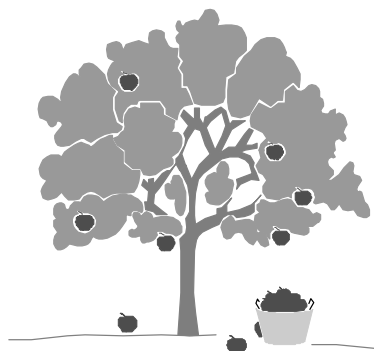
千田 邦博



金沢さんのユーモアいっぱいの指導



視覚障害の生活訓練はマッサージつきで好評



# 平成22年度 社会参加推進センター開催事業報告

事業名	開催日／場所	参加者数	テーマ・内容等
家族教室開催事業 (知的)	8月22日(土) 埼玉県障害者交流センター 第1・2研修室	56名	「障害者(自閉傾向のある人)の将来の生活のあり方」 講師：正中 忠憲先生 社会福祉法人うらわ学園 将来就労させるベースは生活指導、親が今やっておくべきこと
生活訓練開催事業 (身体)	9月8日(水) さいたま市プラザノース2F 多目的ルーム	110名	「認知症って…何？」 講師：丸木 雄一先生 埼玉精神神経センター長 認知症を知り、治療と予防法を学び、家族・地域で どう支え合うか知識を得る
家族教室開催事業 (知的)	10月7日(木) 埼玉県障害者交流センター 第1・2研修室	51名	「障害のある人が犯罪を犯す時」 その背景と更生に向けた支援を考える 講師：大石 剛一郎氏 木下・大石法律事務所 障害があるとしても犯した罪は許されないけれど…
家族教室開催事業 (知的)	10月17日(日) 浦和コミュニティセンター 第15集会室	166名	「精神科の諸症状と服薬について」 講師：佐藤 康一先生 桜ヶ丘記念病院 ①病気や症状に最適な服薬を願って ②質疑応答
「障害者週間」 市民の集い	11月20日(土) 与野本町コミュニティセンター	450名	「障害者週間」を記念して広く障害のある人もない人も一緒に楽しむ催しです。 市セレモニー、障害者作品展、講演、吹奏楽、音楽演奏、手話落語、授産品の販売、手話講座、幻覚・幻聴マシーン、似顔絵コーナー
家族教室開催事業 (身体)	11月27日(土) 与野本町コミュニティセンター 多目的室	44名	「遺言を考える」 講師：藤原 剛氏 弁護士 遺言の意義、実際の利点、遺言の種類についての講演
家族教室開催事業 (身体)	12月4日、11日、18日、 23年1月15日、22日 浦和コミュニティセンター 第7集会室	全5回 延べ 154名	「手話教室」 手話講師：金澤 善明氏 和気あいあいの雰囲気、講師の独特の教え方で参加者がリラックスしながら学ぶことができた。
家族教室開催事業 (知的)	12月7日(金) 埼玉県障害者交流センター 第1・2研修室	54名	「家族の危機！～それでも入所施設は必要ないのか？」 大阪の地域拠点づくり運動に学ぶ 講演：中内 福成氏 障害者児を守る全大阪連絡協議会 生活実態調査や地域拠点づくりについての先進的な取り組みを学んだ
生活訓練開催事業 (身体)	12月12日(日) 与野本町コミュニティセンター 大ホール	80名	「若さと健康に役立つストレッチ・マッサージ」 ①講師：理学療法士 宇田川 眞先生 ②あんま・マッサージの体験と健康相談
生活訓練開催事業 (精神)	23年2月11日(金) 障害者交流センター 第1・2研修室	40名	「共に作ろうみんなの輪 Part 3」 講師：田尾 有樹子氏 巢立ち会代表 講演を通して社会的入院を考える
生活訓練開催事業 (身体)	23年2月19日(土) 大宮ふれあい福祉センター 3階 301-303会議室	89名	「アトムワールド」 講師：砂田 アトム氏 聴覚障害者でありながら、手話劇、手話狂言などの演劇活動や手話指導をしている。聴覚障害や手話に対する正しい理解を広めることができた
生活訓練開催事業 (精神)	23年2月27日(日) 浦和ふれあい館 第一会議室・2Fホール	125名	「オストメイトのための医療講習会／日常生活用具(補装具)展示会」 ①講師：十束 英志先生 病と触れ合うものとして ②講師：田代 美貴氏 オストミーライフをより快適に

## 大震災に思いつこと

NPO法人

さいたま市障害者難病団体協議会

渡邊シヅ子

未だ、余震が続く「東日本大

震災」は、平成23年3月11日、14時46分、M9の揺れと巨大津波は、死者・行方不明2万7千人を超え、人々の夢と日常を奪いました。さらに、福島第一原発事故を引き起こし、安全クリーンなエネルギーを謳った信頼も崩壊しました。そして、3月30日、原発避難地域双葉町の疾病・障害者と家族五十七人が、故郷を遠く、埼玉県障害者交流センターで避難生活を始めました。我が家は、福島中通りの近親

者と電話が繋がり、安堵。忌々しい様々な問題が一刻も早く、より良い方向に収束することを祈らずにいられません。

1923年9月1日、相模湾震源のM7.9の津波を伴った「関東大震災」が発生。2昼夜延焼し続けた大火災は東京を焦土化し、死者・行方不明者10万5千人の大惨事となりました。後に「防災の日」に制定される多くの教訓を残す災害でした。

その日、国鉄職員の父は、枕木が欠落した荒川の鉄橋で災禍を逃れ、都落ちする人を背に幾度となく往復。命を懸けた父の行動を誇りに思いました。母の体験談は悲劇的な中にも逞しさ

や生活の知恵に満ちたものが多く、記念に発行された「主婦の友」大正12年10月号と共に、正しい情報を素早く確保する術と知識、常日ごろの準備心がけが大切であるということを感じさせてくれました。以来、地震となると逃げ口の戸を開け放ち、火鉢を抱え出すのは私の役目となりました。根拠のないまことしやかな噂話、流言飛語が人々を一層不安にしてみました。

「朝鮮人が井戸に毒を入れる」という噂は、身長の高い人、問われても直ぐに答えられない人などは攻撃の対象となる可能性を秘め、障害者も例外ではなく足手まといの何者でもないと言われ息を潜めていたという。

人は災害時、自らと家族を守るのが精一杯、弱者を思い遣るゆとりを保てるのでしょうか。

私は、避難者を背負い鉄橋を渡った父の姿を思い、語り部としてその備えと行動を説く母の眼を忘れることはないのです。

## 事務局だより

「東北地方太平洋沖地震」により被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。今回の未曾有の災害を目の当たりにして毎日胸が痛くなります。東北の方々には比べれば私の生活の不自由さなど些細な苦労ではありませんが普段の何気ない生活がどんなに有難いのかを実感しました。被災者の方はどんなに御苦労されていることと思います。「何かしてあげられることがあれば…」と思います。何かできない自分の無力さを感じます。

これからの復興を信じ一日一日、自分なりに前向きな気持ちで頑張っていきたいと思えます。そして、機会があれば、どんなことでもお手伝いしていきたいと協議会のみなさんと思っております。

松澤 雄子

発行 さいたま市障害者

社会参加推進センター

〒330-0801

さいたま市大宮区土手町

一・二二二一

大宮ふれあい福祉センター4F

TEL 〇四八・六五三・七二七一

FAX 〇四八・六五三・七三四一

http://www.saitama-planet.com/

e-mail saitamacity-handynet@

bz03plala.or.jp

発行・編集人 浅輪 田鶴子

## リレートーク わたしはわたし



### ●渡邊シヅ子さんプロフィール●

渡邊シヅ子 高齢期

大宮区在住

家族：夫婦と子どもたち

雌犬・金魚群団

趣味：絵・農作業